

# 窓辺

もろり ひろし  
毛利 博  
日本は本当に  
医療先進国か

新型コロナ対策は、後手に回ることが多くありました。日本は本当に医療先進国なのでしょうか。経済協力開発機構（OECD）から興味深いデータが示されています。OECDはヨーロッパ諸国を中心に日本、米国を含め38カ国が加盟する国際機関です。

それによると2019年のデータでは日本は人口千人当たりの病床数は世界第1位ですが、医師数は36カ国中32位と低迷し、看護師数は10位でした。これは、ハード面の充実がトップク

ラスですが、人的確保は貧弱で特に医師不足が明らかなることを示しています。本県の医師数は全国で40位前後と下位に沈み、医師不足はより深刻です。また、医師の待遇面では、勤務医は開業医に比較すると抑えられています。

病院の機能は、急性期、回復期、慢性期に分類されます。急性期病床数は世界第1位ですが、平均入院期間は他の加盟国が5〜8日であるのに対し、日本は2倍以上です。これは、病床数を維持するために入院期

間を延ばしていると解釈されても仕方ありません。国民皆保険制度により、国民の医療費負担が他国に比較して格段に安価であり、国民が医療費や入院期間について気にしないことも一因かもしれません。

入院期間の適正化が進むと、病床の過剰と病院経営の厳しさから、これまでとは異次元の医療体制になる可能性があります。新型コロナにより医療体制の問題点が明らかになってきました。病院の機能分担、医療連携について、県民も巻き込んで適正な医療とは何かについて議論すべき時です。

（県病院協会会長  
藤枝市病院事業管理者）